

浮かび上がった教育格差

学びを進化させる

「6つの視点」

激動の新年度がスタートしてから半年が経ちました。遡って振り返ったとき、皆さんは何を感じ、どんな気づきがあったのでしょうか？そして今、皆さんの取組にどのような変化をもたらしているのでしょうか？

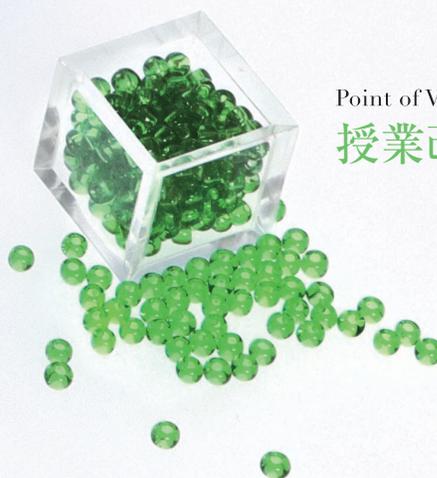
生徒が安心して学べる環境づくりに向けて奔走されてきた先生方の姿に、当たり前だった日常の光景のなかではあまり明確にとらえられていなかった学校の価値や存在意義について、改めて考える機会となりました。学校や先生方が担ってきたものがいかに大切だったのか。おそらく先生方ご自身もさまざまな場面で感じる瞬間があったのではないのでしょうか。

一方で、コロナ禍によって浮き彫りになった新たな教育格差。ICTの環境整備や活用の遅れ、

Point of View 01
ICT活用



Point of View 02
授業改善



Point of View 03
体験活動



生徒が問いに向き合えない授業、活動の制約を受けて目的を見失いかけた学校行事や探究学習など。さらには有事の下で露になったリーダーシップ、教員間の意識の違いや連携不足、そして履修遅れを取り戻すために幾度となく見直しを迫られたカリキュラムなど。

「見たくなかった部分を見える化し、パンドラの箱を開けてくれた」と語るある先生の言葉に象徴されるように、これらは実はコロナ以前から学校現場に潜んでいた、もしくは一部は顕在化していたのかもしれない。だとすれば、新たな格差に向き合うことは足りないものを持たず補うことではなく、これからの学びや学校の在り方、そして教師の在り方を考える機会となるのではないだろうか。大きく揺さぶられた今こそ、学びのつながり、人との絆、そして目の前の生徒を育てる土壌づくりを考えるチャンス、そう強く感じています。

全国のすべての学校で、生徒たちの学びをもっと豊かに、その営みが学校文化として滲み出るように。そして先生方が気負い過ぎることなく、生徒と共に楽しみながら学びを拓いていけるように。本特集が、これからの学校づくりを考えるヒントになれば幸いです。

山下真司(本誌編集長)

Point of View 06

カリキュラム・マネジメント

Point of View 05

リーダーシップ



Point of View 04

教員意識

